

Nagasaka Mago

MAGO
GALLERY
YOKOHAMA

作品はガーナへのラブレター。
毎日描いても、決してこの愛は
尽きることはない。

PROFILE

長坂 真護

ながさか まご

1984年生まれ。2009年、自ら経営する会社が倒産し路上の画家に。2017年6月、「世界最大級の電子機器の墓場」と言われるガーナのスラム街アグボグブローシーを訪れ、先進国が捨てた電子機器を燃やすことで生計を立てる人々と出会う。「我々の豊かな生活はこの街の人々の犠牲のもとに成り立っているという真実」をアートの力で伝えようと決意。以来、これまでに1000個以上のガスマスクをガーナに届け、2018年にはスラム街初の学校『MAGO ART AND STUDY』を設立。2019年8月には初の文化施設『MAGO E-Waste Museum』を彼らの新しい希望と生活のために創設している。



Photo by Fukuda Hideyo

EXHIBITION

2020年

10月21日～11月9日 @阪急うめだ
「長坂真護展 Still A Black Star」

12月23日～29日 @名古屋三越
名古屋三越40周年特別企画
「～アートで世界を変える～
Still A Black Star 長坂真護Art 展」

2021年

4月14日～25日 @伊勢丹新宿店
「長坂真護展 一天命回帰／
Still A “BLACK” STAR」

7月14日～27日 @大丸東京店
「長坂真護展 一超越／
Still A Black Star」

生きる手段でしかなかった画業

Photo by Fukuda Hideyo



「路上の画家 長坂真護」が誕生したのは、2009年。しかしそれは、自ら設立し、1年で倒産させた会社が抱えた負債1000万円を返すための、苦肉の策だった。「それまで社長と呼ばれていた自分が、一瞬でなにもない人間になった。なんでもいから肩書きが欲しかった」と長坂は当時を振り返る。

高校卒業後、長坂は故郷の福井県を出て上京し、東京の専門学校へ。そこで服飾の才能に目覚める。様々なコンテストで入賞を果たし、名前を売っていった。「でも最後に、留学費用の出るコンテストで負けた。悔しくて、自分で学費を稼ぐためにホストになった」という長坂だが、家賃も食費も稼げず、借金が嵩んでいった。「本気になって、気がついたら1位を1年間続けていた。貯金は3000万円になっていた。もう留学ではなく、自分の会社を作ればいい」と、起業。しかし1年後、手元に残ったのは、1000万円の借金だけだった。「学生時代から絵を描いていた。路上画家ならすぐになれる。元手もないし、画家だと名乗れる。スタートはそんな気持ちだった」こうして長坂は画業に足を踏み入れる。それは借金を返すため。純粋に自分のためでしかなかった。



自分のために描くことに意味はない



8年、ろくに食べられない日々が続いた。それでも、絵が売れ、資金ができれば、積極的に海外へと足を運んだ。ニューヨーク、台湾、上海。足を運んだギャラリーは、500軒を超えた。「生活を切り詰め、100万円貯まったら海外へという生活。路上でパフォーマンスをして絵を売ることも。当時は100ドルで売っていた」。その中で貴重な出会いや、気づきもあった。画業をあきらめようとしたこともあった。しかし、そのたび声を掛け、手を差し伸べてくれる人がいた。そうして長坂はヨーロッパ、中でもパリへと通うようになる。「優れた芸術は決して古くならず、常に『最新』であり続けることを実感した。そうあるためには、モノだけでなくコト。つまり経験やエピソード、メッセージがないとだめ。でもどんなメッセージをこめればいいのかわからなかった」

悩みながら、無精卵や二丁拳銃をモチーフに描いた「No War」がテーマの作品を生み出し、少しずつ画壇で名を知られるように。そんな折、パリでの同時多発テロのニュースが届く。駆けつけた長坂の目の前には、想像を絶する惨状が広がっていた。「無力だった。絵でいくらNo Warを叫ぼうと、世界は変えられない」絶望し、天を仰いだ。その目に、満月が飛びこんできた。その瞬間、満たされたという気持ちが長坂を包んだ。「自分の力では世界は変えられない。戦争はなくせない。でも満月のように、出会った人に幸せな気持ちをプレゼントすることはできるんじゃないか」そう思うと、力が湧いてきた。「そこから自分のために描くことに、もう意味を見いだせなくなった」

人を生かすために絵を描く

長坂がガーナと出会ったのは、2017年6月。「世界最大級の電子機器の墓場」と言われるスラム街「アグボグブローシー」を訪れ、先進国が捨てた電子機器を燃やすことで生計を立てる人々と出会った。

「電子機器を燃やし、残った銅などのメタルを売って生計を立てている。ガスマスクがないので、有毒ガスを吸い込んでしまう。だから彼らは平均寿命が30代くらい。それでも、他の仕事より稼げるこの仕事を選んでしまう」

長坂は大きなショックを受ける。「自分たちの豊かな生活はこの街の人々の犠牲のもとに成り立っている」という真実を、アートの力で伝えるべきだと決意する。「必ずまた戻ってくる。その時にはガスマスクを持って来る」と約束して日本に戻った。その日から、e-wasteやスーパースタープロジェクトをはじめとする、数々の作品が生まれていった。

「どんな世界にも1位はいる。それは資本主義、競争社会にとって当然のこと。2位では価値が大きく変わる。自分は1位となり、その優位さを存分に利用し、ガーナのために尽くしたい」

社会貢献・文化・経済の3つの軸がうまく機能する新しい資本主義の経済システム。それが長坂の考える「サステナブル・キャピタリズム」の形だ。ガーナとの出会いで実を成したが、そのつばみや花は、これまでの人生の中で育まれてきたものだ。この実が、さらに多くの花を咲かせるよう、長坂は日々筆をふるう。「いまは取り憑かれたようにガーナのことを考えている。自分の作品はガーナへのラブレター。毎日描いても、決してこの愛は尽きることはない」

長坂真護のactionとそれを支えるwill



action

Photo by Fukuda Hideyo

年間600以上の作品制作

2020年、長坂が制作した作品は625点。これは一般的な作家の10年分に相当します。「ガーナへの情熱、よくしたいという想いで描いている。エネルギーは尽きない」。実はこの多作も、長坂が考える「サステナブル・キャピタリズム」の一環なのです。

第三者が価値を操作できない作品

多作である一方、長坂自身が所有している作品は基本的に無く、現在、多くの人々が新作を購入したいと待機している状態です。「こういう場合、一般的な作家の作品は、オークションなどで買うことになる。そこで売買されると、売上は作家に入ってこない。それを防ぐための多作でもある。トップランナーであり続けることでニーズを刺激する。そこへしっかりと作家本人が作品を供給する。これで価格はつり上がらない。そして、ちゃんと売上がガーナにわたることとなる」

公式ギャラリーのみでの売買

長坂真護の作品は、公式ギャラリーでしか購入できません。現在、ギャラリーは日本だけでなく、海外でも続々とオープンしています。こうして作品の流通経路を限定することでも、コントロールできない価格の上昇を防いでいます。また、公式ギャラリーで購入することで、購入代金がガーナの支援に確実に充てられることとなります。

長坂真護の活動は多岐にわたり、更なる広がりをみせています。
長坂の活動と、そこに込めた想い、そして描く未来の一端をご紹介します。

will

ドキュメンタリー映画の 公開に向けて活動中

ガーナでの長坂真護の活動を追ったドキュメンタリー映画『Still A Black Star』の世界公開に向けて、様々な活動をしています。クラウドファンディングサイト『CAMPFIRE』では、2000万円の目標を大きく超え、3000万円以上の支援を集めることができました。エミー賞受賞経験のあるカーン・コンウィザーが監督を務め、注目の作品となっています。「[今後は世界の劇場での公開や配信サービスでの公開を目指して活動を実施し、ガーナの現状や自分自身の活動を多くの人に広めていきたいと考えています](#)」



Photo by Fukuda Hideyo



「ミリーちゃん」プロジェクト

ミリーちゃんは、電子ごみからうまれたアニメキャラクター。アニメシリーズを制作するほか、電子ごみから作ったグッズも販売予定です。そのために2021年から小規模なりサイクル工場の建設に着手する予定です。グッズ生産だけでなく、電子ごみをチップ化してリサイクルペレットを生成し、様々な企業に販売する計画もあります。「[文化を楽しみ、地球をきれいにしながら、経済を回すこのプロジェクトは、誰もが参加できます。ぜひ一緒に立ち上がって進んでいきましょう！](#)」



value

様々なガーナへのアクション

1 ガスマスクの提供

定期的にガーナへとガスマスクを提供。
現在までに1000個以上を届けています。

2 教育機会の提供

2018年、ガーナにスラム街初の学校『MAGO ART AND STUDY』を設立しました。算数や社会などの勉強のほか、環境問題やアートについても教えています。今後50年間は無料で教育を提供することを約束しています。

3 文化施設の提供

2019年には、アグボグブロシー5回目の訪問で53日間滞在し、彼らの新しい希望と生活のために、スラム街初の文化施設『MAGO E-Waste Museum』を設立しました。この軌跡が映画『Still A Black Star』に記録されています。

4 スーパースタープロジェクト

スラム街のアーティスト志望の青少年が描いた作品をMAGO GALLERYで販売しています。その売り上げの10%は、直接現地のアーティストに渡されています。例えば、10万円で販売されれば1万円が渡されます。これは平均的なガーナの給与の2ヶ月分に相当します。こうして未来に希望を抱き、スラム街から「スーパースター」が生まれれば、と考えています。

5 リサイクル・ギガ・ファクトリーの設立

長坂真護は、2030年までにガーナのスラム街に100億円規模のリサイクル・ギガ・ファクトリーを建設することを目標としています。しかし、地球の環境問題の深刻度は増すばかりです。2030年まで待つのではなく、できることから始める形に変え、小規模なリサイクル工場の建設から近いうちに着手する予定です。リサイクル工場の建設により、生活環境と労働環境の改善が実現するほか、現地での大きな雇用の創出も期待できます。

長坂真護の打ち込む活動、その活動がもたらす価値、そして実現する未来の一部をご紹介します。

作品を購入いただくことで、そこに賛同し、成果や実現を加速させることができます。長坂と長坂の作品に共感し、魅力を感じた方のアクションもまた、ガーナをそして世界をよりよくするコトにつながる、価値のあるアクションとなるのです。



ABOUT CINQ ARTS Inc.

「長坂真護の作品を通して 社会的価値の創造に取り組む」

当社は2014年に創業以来、主にリユース品の出張買取事業を中心にサービスを展開してまいりました。

どうすればリサイクル・リユースを通じて社会に新しい価値を生み出せるのか？

そう問いながら日々経営を行っている中、とある雑誌で長坂真護の存在を知りました。

先進国で捨てられたゴミがガーナに投棄されている。
この現実を、アートで世界中の人に知らせたい。

そんな思いから作品を描く長坂真護のビジョンは、
当社が目指す理念やビジョンとまさに合致していたのです。

長坂真護の作品を通して社会的価値の創造に取り組み、
貧困や地球環境の改善に貢献すること。
そして、新たな成長ステージへ向けて業界全体の発展に寄与すること。

これらを当社のミッションの一つとして、
これからも長坂真護を応援し続けて参ります。

五右衛門ホールディングス株式会社 代表取締役
MAGO GALLERY YOKOHAMA オーナー

坂根大郷

MAGO GALLERY YOKOHAMA



MAGO GALLERY YOKOHAMAについて

MAGO GALLERY YOKOHAMAは、美術家・長坂真護の専属ギャラリーです。
現在、最も注目されているサステナブル・アートの先駆者である長坂真護のアート作品を、
ゆったりとした空間で堪能していただくことができます。

また、SDGs活動に取り組む企業や自治体、学生などと連携し、イベントや勉強会なども企画・開催しています。地域のSDGs情報発信拠点として、お気軽にお立ち寄りください。

クリエイティブプロデューサー 東村 奈保



MAGO GALLERY YOKOHAMA <https://cinq-arts.com/gallery/>



五右衛門ホールディングス株式会社 サンク・アーツ事業部

〒231-0861 神奈川県横浜市中区元町1丁目38-2 Le Noir 横濱元町 1F

営業時間 11:00~18:00 定休日 不定休 営業日、時間はWEBサイトにてご確認ください。

電車でお越しの方

みなとみらい線 元町・中華街駅(元町口)徒歩3分/JR京浜東北線 石川町駅(元町口)徒歩10分

お車でお越しの方

駐車場はございません。お車でお越しの際は「Le Noir横濱元町」周辺の各駐車場をご利用下さい





GHANA

「E-waste」とは、電気電子機器廃棄物のこと。ガーナのアグボグブロシーは、「世界最大級の電子機器の墓場」と呼ばれ、先進国からE-wasteが集まり、廃棄されている。そこに住む人々は、このE-wasteを集め、溶かし、生計を立てている。その過程で有毒ガスが発生するため、現地の人々の多くはがんを患い、若くしてで生涯を閉じる。2017年にこの現状を目にした長坂が「アートの力でこの真実を伝え、彼らの生活を救いたい」と始めたのがこのシリーズ。現地のゴミを利用し、アート作品に昇華している。「現地のゴミを減らすことはもちろん、ゴミを作品に変え、富と交換し、その富をガーナに再分配する。社会貢献・文化・経済の3つの軸がうまく機能する新しい経済システムを「サステナブル・キャピタリズム」として提唱している。

Photo by Fukuda Hideyo

GHANA

“E-waste” refers to trash in the form of discarded electrical and electronic equipment. Agbogboshie, located in Ghana, is known as one of the world's largest “graveyards” for electronic equipment, where e-waste is collected from developed countries and disposed of. The people who live there make their living by collecting and melting this E-waste. The melting process releases toxic gases, which has led to cancer in a large number of people in the area and is causing many of them to die at a young age. After seeing this situation in 2017, Nagasaka Mago started this series of works to “convey this reality through the power of art, and save their lives and way of life.” He uses local garbage and transforms it, elevating it into pieces of art. “On top of reducing the amount of trash in the area, I want to turn the trash into artwork, then exchange it for wealth, and redistribute that wealth back to Ghana.” He advocates for a new economic system of “sustainable capitalism,” in which the three elements of social contribution, culture, and economy function well together.



Plastic Boy

2021

H160cm W116cm / Oil and E-waste on Canvas

¥ 14,300,000



Wild Turkey at Slum

2021

H150cm W120cm / Oil and E-waste on Canvas

¥ 3,190,000



Welcome to our world

2021

H210cm W120cm / Oil and E-waste on Canvas

¥ 1,650,000



I was a police

2021

H50cm W40cm / Oil and E-waste on Canvas

¥ 1,100,000



I wanna be a singer

2021

H40cm W40cm / Oil and E-waste on Canvas

¥ 880,000



月

2015年に起きたパリ同時多発テロ。

テロ以前に一時パリに住んでいた長坂真護は既知のその現場を事件後訪れました。現場を目の当たりにして抱いた“恐怖”と“葛藤”。しかし、ある時見上げた空に浮かぶ満月を見て憎しみや葛藤が消え心が穏やかになるのを感じました。

この「月」の作品群は自身の理念の一つである“世界平和”、その想いを表現するために生まれた作品です。世界中のどこでも誰でもみることができ、心に平安がもたらされる“月”をモチーフに。満月こそ世界平和の象徴であり、満月は世界の淀んだ空気を清浄化する世界平和の空気清浄機なのかもしれません。

The Moon

In 2015, a series of coordinated terrorist attacks occurred in Paris. Nagasaka Mago, who lived in Paris for a while before the attacks, paid a visit to the sites of the incidents after they happened.

When he saw the scenes first-hand, he felt fear and inner conflict.

However, at one point he looked up and saw the full moon in the sky, and he felt his hatred and inner conflict disappear as his heart become calm.

His “Moon” series is based on one of his personal philosophies of world peace, and he created these works to express this idea.

The moon, which he chose as the motif, can be seen by anyone, anywhere in the world, bringing peace to the mind.

The full moon itself is a symbol of world peace, and perhaps acts as a purifier to cleanse the stagnant air of the world and bring peace throughout.



Moon Stream

2020

H120cm W120cm / 越前和紙、墨、金粉銀粉、スワロフスキー

¥ 7,700,000

伝統的な越前和紙に、墨や膠や金粉銀粉を混ぜ込み、スワロフスキーなど、先進的アート表現を組み合わせた作品。作家本人が作曲した楽曲が埋め込まれている。



FULL MOON

2020

H120cm W120cm / 越前和紙、墨、金粉銀粉、スワロフスキー

¥ 5,500,000

伝統的な越前和紙に、墨や膠や金粉銀粉を混ぜ込み、スワロフスキーなど、先進的アート表現を組み合わせた作品。



FULL MOON

2020

H120cm W120cm / 越前和紙、墨、金粉銀粉、スワロフスキー

¥ 6,050,000

伝統的な越前和紙に、墨や膠や金粉銀粉を混ぜ込み、スワロフスキーなど、先進的アート表現を組み合わせた作品。



FULL MOON

2020

H57cm W57cm / 越前和紙、墨、金粉銀粉、スワロフスキー

¥ 1,980,000

伝統的な越前和紙に、墨や膠や金粉銀粉を混ぜ込み、スワロフスキーなど、先進的アート表現を組み合わせた作品。
作家本人が作曲した楽曲が埋め込まれている。



FULL MOON

2020

H120cm W120cm / 越前和紙、墨、金粉銀粉、スワロフスキー

¥ 6,600,000

伝統的な越前和紙に、墨や膠や金粉銀粉を混ぜ込み、スワロフスキーなど、先進的アート表現を組み合わせた作品。



スーパースターズプロジェクト

スラム街からスターとなる手段はこれまでサッカー選手になる以外はありませんでした。“それだけではない、新しい道を作ってあげたい”この「スーパースターズプロジェクト」は長坂真護の想いを形にしたプロジェクトです。

現地の青少年の中でアートに関心を持つ者を集め、アーティストとして作品を作る。

Photo by Fukuda Hideyo

そのアートを先進国で販売し、売り上げを作家に支払います。得た収入でまた画材を購入し、描く。スターアーティストがこのアグボグブロシーから誕生する日もそう遠くないかもしれません。

Superstars Project

Until now, the only way for someone in the slums to become a star has been to become a soccer player.

""That's not all there is—I want to create a new path for them,"" thought Nagasaka Mago, and the "Super Stars Project" is the realization of that wish.

The project gathers local youths who have an interest in art and creating works as artists.

Their art will be sold in developed countries, and the proceeds will be paid to the artists. The youths can then use the money to buy more art materials and keep creating.

It may not be long before star artists arise from Agbogbloshie.



スーパースターズ

2021

H40cm W60cm / Acryl

¥ 110,000



スーパースターズ

2021
H40cm W60cm / Acryl

¥ 110,000



スーパースターズ

2021

H40cm W60cm / Acryl

¥ 110,000